

令和2年度第2回川崎市資産改革検討懇談会（議事録）

- 1 開催日時 令和3年1月19日（火）午後1時00分～午後2時00分
- 2 開催場所 Web会議にて開催
- 3 議題（公開）
 - （1）施設白書について
 - （2）次年度附属機関（川崎市公共施設マネジメント推進委員会）について
- 4 傍聴者数 0人

5 会議内容

（1）施設白書について

行政側出席者

資料1～資料4について説明。

有識者委員

区ごとの状況を知りたいのであれば、属性も入れて市民全体のアンケートができないか。群馬県太田市が行ったアンケートでは、政策ごとに、満足度と重要度について6段階の尺度で聞いている。このように、2つくらいの軸で、公共施設について聞けないか。

最終的にはプライオリティーが問題になってくる。プライオリティーを聞くときに、市民の目線に立って、この施設を重要と思うかということについて6段階の尺度で聞いており、質的なデータとしては役に立つと思う。ただ、満足度については太田市とは趣旨が違うので、満足度に代わる指標については考えていただきたい。

太田市は1,000人以上回答しているが、川崎市は人口が150万以上いるので、できれば2,000～3,000人程度データが取ればよいが、属性（性別、年齢階層等）がバラつくように、区ごとに100程度のデータが取れば意味があると思う。太田市が優れているのは、4つの領域に分けて評価ができるということ。6段階の尺度で、横軸に満足度、縦軸に重要度を設定し、平均で区切ると4つの領域となる。あくまで考え方であるが、このようにすれば、特定の施設の重要度、満足度を市民がどのようにとらえているか、市民の目線からの評価がわかるのではないかと思う。

施設類型や個別の施設、主要な施設でもよいが、それらを4象限に分けて可視化することができれば、区ごとにシンポジウムをするときに可視化したデータを使い議論することができる。経営学ではこのような手法を使っている。このような観点で、施設類型、地区ごとに可視化して議論できないかなと思う。

市民ニーズの把握について、客観的な指標としては施設ごとの利用率がある。ただ、市民ニーズが低いから利用率が低いともいえない。例えば、サラリーマンが運動で使いたいと思

っていても、利用時間が合わず利用していないというケースも考えられる。市民ニーズは利用率という客観的指標+重要度、など3つくらいの複合指標として捉えておくといのかかなと思う。

市民に議論・判断してもらう際には、老朽化の度合い、利用度、コスト情報、この3つのデータが必要であり、それらが施設白書で見える状態になっていることが重要と考えている。地区全体にどう施設を配置すればよいかということは、市民は決められないのではないかな。よって、個別の施設で議論しないと、議論が発散してしまうと思う。主要施設についてはこの3つの指標で議論できると思うが、それ以外の施設は施設白書に記載するのか。

行政側出席者

全ての施設を記載することとなる。

有識者委員

施設の利用者アンケートも実施した方がよいと思う。そうすると、利用者が限られていることがわかると思う。そうしたことも浮き彫りになる施設白書であってほしいと思う。アンケートにより、ある年齢階層が集中して利用している、かつ70歳以上の皆が利用しているのであればそうした施設は重点的に整備するという議論になるが、限られた人しか使っていない施設であれば縮小してもよい、こうした議論がしやすいような見せ方になるとよいと思う。要は、議論ができる材料がそろっているのが施設白書であると思う。行政目線だけではなく、市民からの目線でも診断が下せるようなデータの見せ方ができると良いと思う。

行政側出席者

我々としてもどのような人がどれくらい使っているか把握したいと考えているが、現状、全ての施設についてそうした情報があるわけではないというのが実情である。ふれあいネットで属性が取ればよいが、入力がしなくてもよいという項目もあるため、改善することで属性・目的がしっかりとれるような体制を取らなければいけないと認識したところである。

有識者委員

年齢層、仕事の有無等、重要な項目についてはデータを取らなければならない、必須項目にできればよいと思う。

行政側出席者

こうした情報がないため、全施設残さなければならないという議論になる。客観的なデータが取れるような形にしていかなければならない。

有識者委員

市民ニーズは重要性を6段階くらいの尺度で聞くのがよいと思う。漠然としているが、間違っていないと思う。太田市もそれで結構成功しており、判断しやすいと言っている。住民にとって大切かどうかは基本。

行政側出席者

来年度はアンケートを実施していきたいと考えている。具体的な案をこちらで検討してまたご相談させていただければと思う。

有識者委員

市民ニーズと施設情報の分析についても、市民ニーズと利用率という軸により、先ほどのような図で可視化できればよいと思う。地区ごとに図がそれぞれあり、右下にある施設と左上にある施設をうまく埋め合わせる、複合化することなどにより両方とも右上に持って来られるのではないかという感覚を持っている。経営学では、4象限くらいに分けてうまくプロットできると誰でもわかり、議論できるという利点がある。それ以上細かく分けると使いものにならない。

行政側出席者

どういった見せ方ができるか、考えていきたい。

有識者委員

対外的な資産保有の最適化の説明について、どういったことが課題か。

行政側出席者

特に、資産保有の最適化そのものの説明が課題だと認識している。先程おっしゃったように、具体的な施設がないと議論が発散してしまうと考えている。例えば、大師・田島支所再編は具体的に進んでいるため資産保有の最適化について説明しやすいが、そうでないような場所で説明しても、あまり響かないのかなと考えている。そこで響いてもらうためにはどのようにすればよいか、ということが課題だと認識している。

有識者委員

これについては個別の施設で議論していただくしかないと思う。自分で使っている施設がなくなったらどうなるかという極端な議論をしないと、最適化の意味合いが伝わらないのではないかと。マクロで、資産保有の最適化が何か、進め方をどうするか、問われても住民の方からは答えはでないと思う。であれば、財源、住民構成等を所与の条件として、公共施設をどのようにするか、というマネジメントゲームを多くのところで開催することにより、

資産保有の最適化とはミクロで見ればこういうことだ、という感覚を養ってもら方がよいと思う。さいたま市や千葉市もマネジメントゲームを開催していた。それぞれの区で、2年くらいかけて開催した方がよいと思う。

行政側出席者

来年度、ワークショップを開催しようと考えており、その中で、今おっしゃったような手法などで市民の方に感覚を掴んでいただけるような取組を進めていきたい。

有識者委員

是非進めていただきたい。まず資産保有の最適化とは何かを説明して、次に、マネジメントゲームで2～3回くらい回して具体的に体感してもらう。来年度か再来年度で並行的に進めていくとよいと思う。

有識者委員

施設白書のコスト状況について、金利（公債利子）は施設ごとに割り振っていないか。

行政側出席者

今回の施設白書では、公債費はコストに計上しておらず、施設ごとに割り振りはしていない。金利については今回間に合わないが、どこまで施設ごとに把握できるか、今後確認したい。

(2) 次年度附属機関（川崎市公共施設マネジメント推進委員会）について

行政側出席者

資料5について説明。

※質疑、意見については特になし。

以上